

## 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

### 1. 全学科共通のカリキュラム・ポリシー

- ① 「共通教養科目」と「学科科目」をバランスよく配置して建学以来の教養教育を重視しつつ、現代社会で活躍するための教育を施す。
- ② 「共通教養科目」は本学の人間形成教育を具現するために「基礎学修系」・「基礎教養系」・「生涯教養系」の三系列で構成する。
- ③ 「基礎学修系」は三つに分け、「基礎科目」では少人数制の「基礎ゼミナール」や「文章作法」・「発表法」・「情報リテラシー」を配置した。「基礎コミュニケーション科目」では言語科目を配置し、「読む・書く・話す・聞く」といったコミュニケーション能力を養成する。また、「基礎情報科目」では「基礎数学」・「コンピュータ実習」を配置し、情報社会に必要な情報処理・活用の基礎知識を修得する。
- ④ 「基礎教養系」は社会や人間に対する広い視野と洞察力を養うため、人文・社会・自然科学の基礎的科目を配置し、専門教育への橋渡しをするとともに本学の教育基盤となる教養を培う。
- ⑤ 「生涯教養系」は人間としての生き方や働き方、社会生活のマナー、ジェンダー平等、健康的な生活など、これからの生涯を通じて必要となる考え方を学ぶ。

### 2. 学科のカリキュラム・ポリシー

[教養学科]

- ① 「研究」・「基本科目」・「情報系」・「人文科学系」・「社会科学系」・「北海道・地域系」という六系列で構成し、段階的に学修を進められるように配置する。
- ② 「基本科目」は、社会を構成する一社会人として欠かすことのできない、学んでおくべき科目群で構成する。
- ③ 「情報系」は、学修や研究を進めるうえで不可欠な情報に関する知識を修得するための科目と、ビジネスの場で必須とされるコンピュータに関する実務的能力を身に付けるための科目を配置する。
- ④ 「人文科学系」は「歴史」・「文化」・「文学・思想」・「メディア」の四分野とし、歴史や文化を通して世界諸地域への関心を高め、文学・思想やメディアに触れるなかで人間の本質に対する理解を深めるための科目を配置する。

また、「社会科学系」は「心理」・「法・政治」・「教育・福祉」・「環境・社会」・「経営・経済」の五分野とし、人間や社会の仕組みやそれに関わる諸問題を理解し、その問題解決について考察する力を身に付けるための科目を配置する。

- ⑤ 地域の発展を目指し、積極的に貢献する力を養うために「北海道・地域系」を置き、北海道や観光に関わる知識を身に付ける。
- ⑥ 「研究」は、学生自身の学ぶ意欲に応えることができるよう、幅広い分野について「専門ゼミナール」を展開し、その成果を「卒業研究」としてまとめる。
- ⑦ 教養コースは、人間が培ってきた学術文化を専門的に学ぶことを通して現代社会を生きる自己を見つめ、人間理解の基本として人文科学と社会科学に関する広範な系列科目をバランスよく学びながら、人間や社会を取りまく問題を解決する力を身に付けるコースとし、特に「歴史」・「文化」・「文学・思想」分野をコース優先科目として位置づける。
- 経営・経済コースは、ローカルとグローバル双方の視点から経営学やマーケティングおよび経済学の知識を修得し、その周辺領域である「心理」・「法・政治」・「教育・福祉」・「環境・社会」と関連性の高い「情報」・「北海道・地域」の系列科目を学びながら、ビジネスに関する課題を解決する力を身に付けるコースとし、特に「経営・経済」・「環境・社会」分野をコース優先科目として位置づける。
- ⑧ 「自由科目」として、より主体的、実践的に社会と関わり、問題解決を図る力を養うために「課題解決演習」を設置する。また、国際社会に関心を持ち、英語関連資格の取得や海外での学びへの挑戦を支援するための科目として「検定英語演習」・「TOEIC®演習」・「語学研修」を設置する。
- ⑨ 専門的かつ実践的な知識や技能を身に付けることができるように、「図書館司書課程」と「ビジネス教養課程」の二つの付設課程を設置する。

#### [英文学科]

- ① 英語圏の文化・教養を中心とした「英語と英語圏文科系」、実践を中心とした「英語コミュニケーション系」の二系列を置き、両系列をバランスよく学修できるよう配慮する。
- ② 「英語と英語圏文化系」は、グローバル社会を生き抜くために必要な文化理解の促進と、異文化の人々との円滑なコミュニケーション、さらに歴史を含め言語そのものへの理解を深めることを目的とした科目群を配置する。
- ③ 「英語コミュニケーション系」は、「英語運用」と「英語資格」の二分野を置く。「英語運用」分野には、社会的に通用する英語力の向上を目指し、「聞く・話す・読む・書く」の英語の4技能それぞれについて少人数制で行う演習科目を配置する。特に、1年次に基本的な英語運用能力を身に付ける科目、2年次にはその力を発展させるための科目を、段階的かつ効率的に学修できるよう構成する。
- 「英語資格」分野には、学修の動機づけを高め、社会的に通用する資格取得を支援するための科目を開設する。
- ④ 「情報系」は、学修や研究を進めるうえで不可欠な情報に関する知識を修得するための科目と、ビジネスの場で必須とされるコンピュータに関する実務的能力を身に付けるための科目を配置する。

- ⑤ 様々な角度から文化や人間に対する理解を深め、幅広い教養と国際的な視野を涵養するために「人文・社会科学系」を設ける。
- ⑥ グローカルに活躍する能力を養成するために「北海道・地域系」を置き、北海道や観光に関わる知識を身に付ける。
- ⑦ 「研究」は、学生自身の学ぶ意欲に応えることができるよう「専門ゼミナール」を展開し、その成果を「卒業研究」としてまとめる。
- ⑧ 「自由科目」として、より主体的、実践的に社会と関わり、問題解決を図る力を養うために「課題解決演習」を設置する。また、国際社会に関心を持ち、海外での学びへの挑戦を支援するための科目として「語学研修」を設置する。

#### [経済学科]

- ① 社会人として通用する経済学の基礎知識を確実に身につけることができるように、「経済学の基礎」4科目を1年前期から2年後期の4期すべてに配置し、必修科目とする。
- ② 日本経済や地域経済についての専門知識や消費者・生活者の視点から考察する力を身につけるために、「環境と経済」「消費と経済」などの科目で構成される「経済と生活」系列を履修モデルとして提示する。
- ③ グローバル化する世界経済への理解を深め、地域の金融機関が求める人材ニーズに応えるために、「銀行と金融」「証券と金融」「保険と金融」などの科目で構成される「金融と国際経済」系列を履修モデルとして提示する。
- ④ 企業経営やマーケティングなどの理論や商法・会社法の知識を身につけ、ビジネスの場で不可欠な情報を収集・活用する能力を養うために、「企業と経営」「企業と市場」などの科目で構成される「経営と情報」系列を履修モデルとして提示する。
- ⑤ ビジネス社会で求められる実践的な基礎知識や情報処理能力を養成し、検定合格率の向上を図るために、「簿記Ⅰ・Ⅱ」「コンピュータ実習Ⅲ・Ⅳ」などの各種資格取得を目指した科目を開設する。
- ⑥ 課題探求能力を持ち、つねに新たな課題に挑戦し、みずから成長する力を養うために「専門ゼミナール」を展開し、その成果を「卒業研究」として発表する。
- ⑦ 職場での実務体験を通して、職業や企業への理解を深め、キャリアデザインの設計やビジネス・スキルの向上などを目指す「企業実習Ⅰ・Ⅱ」「キャリア論」「オフィスワーク」で構成される「企業研究プログラム」を設置する。